

Title	太宰治スタディーズ 第5号 編集後記 奥付
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2014, 5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97208
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

太宰治スタディーズ

太宰治スタディーズ 第5号
2014年6月19日発行
「太宰治スタディーズ」の会

発行者：「太宰治スタディーズ」の会
発行所：斎藤理生
〒560-8532
大阪府豊中市待兼山町1-5
大阪大学大学院文学研究科内
斎藤理生研究室
印刷：(有)大気堂

編集後記

■「太宰治スタディーズ」第5号をお届け致します。若干前史がありますが、これで隔年での雑誌刊行をはじめて10年がたったこととなります。今回は、歴史性と物質性を兼ね備えた書物から「太宰治」を考えるというテーマに取り組みました。皆様のご批評を頂ければ幸いです。

■小会・小誌は「若手研究者による太宰治研究(誌)」という旗印を掲げてきたはずですが、メンバーの年齢・環境も当初からは大きく変じた今、「太宰治研究(全体)」の状況もふまえ、改めて「研究」の対象やねらい、成果などを、会/個々のメンバーとして、自己点検する時期にさしかかっているように感じます。

■研究キャリアの短さ・若さを「新しさ」の表徴とするならば、何を以て「研究」の「新しさ」と捉えてきたのか、そこから具体的にどのような「新しさ」を提示できたか、そしてそれは、どのように「太宰治研究」に関わることができた(できなかった)のか。さらにいえば、(今なお/今さら)作家の固有名を冠した研究会でありながら/であるがゆえ、どの程度、「太宰治研究」にとどまらない、一般化に耐えうる議論を展開してきただろうか。また、ゆるやかに世代・興味関心を共有した「会」ならではの強味はどのように活かすことができたろうか。考えるべき課題は、少なくないと思います。

■前号に引き続き、メンバー外の執筆者に書評をご寄稿頂きました。この場をかりて御礼申し上げます。印刷・製本では、いつもながら(有)大気堂さまにお世話になりました。

■「『太宰治スタディーズ』blog」
〔<http://d.hatena.ne.jp/dstudies/>〕も時折更新しています、ご参照下さい。